

伊勢自動車道 全線開通30周年

うましくに
伊勢は、古代から「可怜し国=美しい国」と言われ、
伊勢自動車道は、古代～現代を結ぶ美しい国(伊勢)へと通じる道です。



伊勢自動車道 松阪IC付近

もっと安全に、もっとスムーズに

目 次

三重県観光連盟 山岡専務理事 インタビュー ……2

伊勢自動車道の概要 ………………3

- 路線概要
- 伊勢自動車道の交通量の推移

伊勢自動車道の整備効果 ………………5

- 30年間の経済効果は約1.9兆円
- 沿線地域の工業団地が約10倍に増加
- 沿線地域の観光入込客数が約1.2倍に増加
- 式年遷宮の参拝者数が約1.7倍に増加
- 三重県の新鮮な水産物や農産物が食卓へ
- 沿線地域の人口集中地区面積が約2倍に
- 安全安心な医療活動に貢献
- 医療現場への血液の安定供給を支援
- 地域連携で沿線の活性化を促進
- 自然と共生する高速道路へ



移動環境がよくなれば
人の動きも変わる
そして
観光の形も変わる



公益社団法人
三重県観光連盟
山岡 克樹 専務理事

観光産業は三重県の県内総生産の3%を超える産業であり、その経済効果は、宿泊業や飲食業、運輸業といった分野だけでなく、製造業、農林水産業など幅広い分野に波及する裾野の広い産業である。伊勢自動車道の開通が三重県の観光や県民の生活に与えた効果、そして今後に寄せる期待を伺った。

伊勢自動車道の開通により 身近になった高速道路

出身は鳥羽市で、若い頃は伊勢自動車道は久居IC(津市)や勢和多気IC(多気町)までしかつながっておらず、さほど利用しませんでした。その後伊勢IC(伊勢市)まで延伸し、伊勢自動車道全線が開通したことでの高速道路が身近になり、利用するようになりました。特に津から鳥羽方面の利便性は大幅に向上しました。

また、開通当初は対面通行でしたが、現在では4車線となり、さらに快適性が向上しています。

実感する交流圏域の拡がり

名古屋から伊勢神宮までを例にとると、社会人になった30数年前と比べ、開通により約40分、時間が短縮されました。名古屋からすぐに来られるようになったことが観光において変わってきた部分。40分程の違いですが、その差が意外に大きいのです。

三重県は西に関西圏、北に中京圏

があり、どちらからもちょうどよい距離帯で、これまでより一回り外のエリアのお客さまが来られるようになりました。また、今まで日帰りで来られていたお客様も余裕のある日帰りに変わってきたと言えます。

日帰り圏の拡大により宿泊客が減るようと思われますが、一泊で来られたお客様が日帰りに変わったとしても、ゆっくり三重を回りたいという人は必ず残ります。もう一回り外のエリアのお客さまが来やすくなることによる、交流圏域が拡がるプラス要素の方が大きいと感じています。

県民にとっての安心

伊勢自動車道ができ、さらに伊勢二見鳥羽ラインができたことで、伊勢の病院に鳥羽方面から患者の方を運ぶ時間が短縮されました。1分1秒を争う医療の場面では本当に大事。

併せて紀勢自動車道と伊勢自動車道が接続したことで、東紀州地域から松阪の病院まで高速道路を利用し

搬送することができるようになりました。高速道路ネットワークの構築により、医療に良い影響があったことは間違いないでしょう。

また、三重は津波の影響を受けるエリアの一つですが、伊勢自動車道は全体的に山側を走っており、災害時にも活用できる道路があることで安心感を与えていくと思います。

今後の期待

コロナ禍で観光業は厳しい状況ですが、訪問客を増やしていくという観点では利便性向上が必要です。その一つとして、観光施設と直結したスマートICの整備があり、目的地までの所要時間情報の充実も重要です。

目的地の前まで移動できることが自動車の強み。自動運転化が進むことでさらなる利便性の向上につながる考えています。今後、高速道路通行料の割引やドライブプランなどの活用により、さらなる観光の発展に期待しています。

伊勢自動車道は全線開通30周年

三重県内を南北につなぐ高速道路ネットワークを形成

■ 路線概要



E23伊勢自動車道は、E1A新名神高速道路、E23東名阪自動車道、E42紀勢自動車道とともに構成する高速道路ネットワークで、三重県内を南北につなぐとともに、伊勢志摩と近畿・中部をつなぎ、経済・文化・暮らしを支えています。

1975年10月に関JCT～久居IC(4車線)が開通し、1990年12月に久居IC～勢和多気ICが、1993年3月に勢和多気IC～伊勢ICが暫定2車線で開通し、全線開通となりました。

その後、1996年には久居IC～松阪IC、1998年には松阪IC～勢和多気ICが4車線となり、2002年には勢和多気IC～伊勢西ICが4車線となりました。

また2005年には亀山直結線の開通により東名阪自動車道と接続し、2006年には紀勢自動車道と接続しました。

そして2023年3月に全線開通30周年を迎えます。

Topics NEXCO3社初の民間施設直結型スマートIC 多気ヴィンソン

多気町にある日本最大級の商業リゾート施設「VISION」。

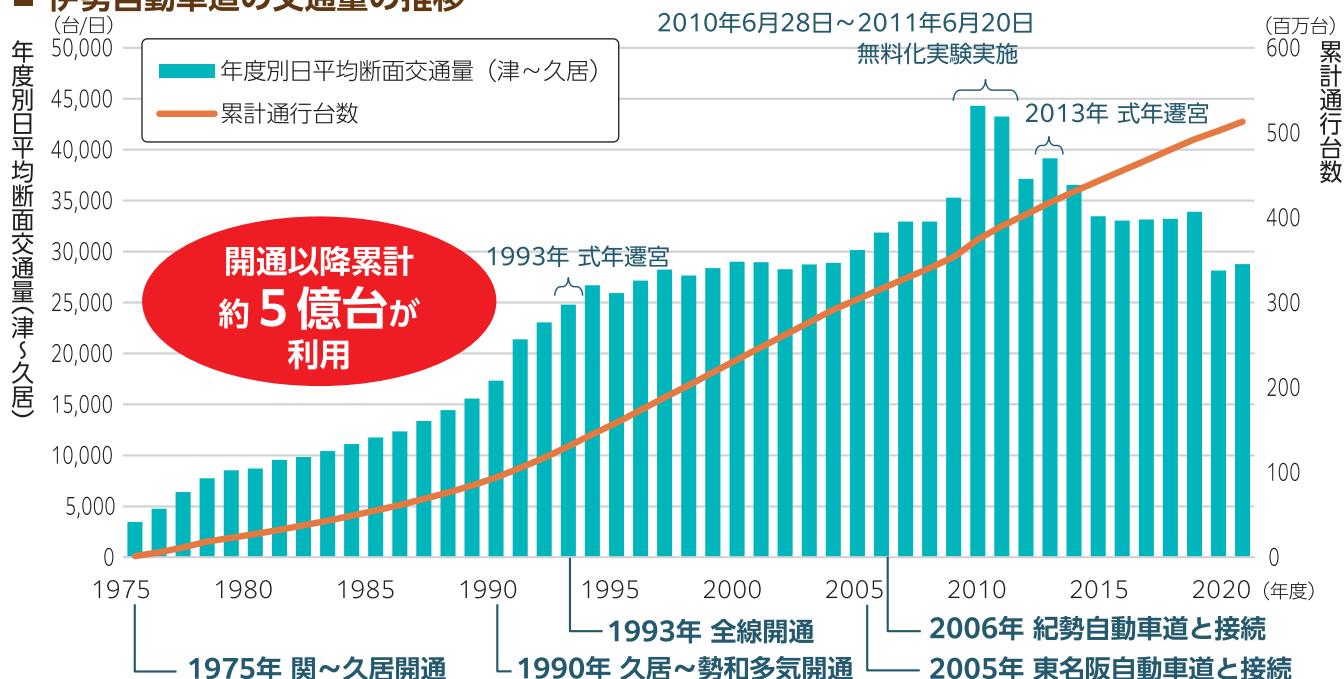
伊勢方面からのみ多気ヴィンソンスマートICで直接アクセス可能です。伊勢観光の帰路に気軽に立ち寄りいただけます。



開通以降累計約5億台が利用

開通にあわせて通行台数が増加し、多くのお客さまがご利用に

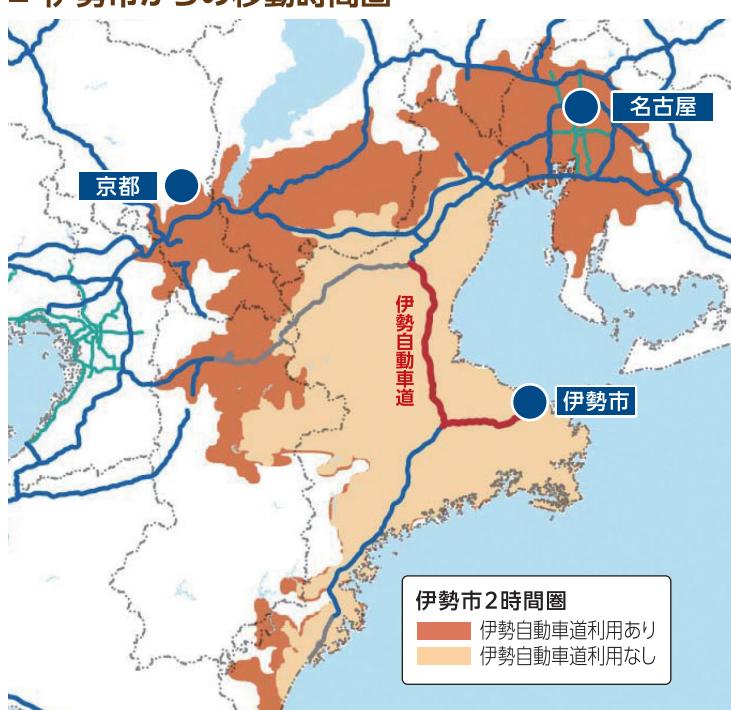
■ 伊勢自動車道の交通量の推移



伊勢志摩地域からの日帰り圏が拡大

伊勢志摩地域から2時間で移動できる圏域が拡大し、多方面から伊勢志摩地域へ日帰りで移動することが可能になりました。

■ 伊勢市からの移動時間圏



移動時間圏が拡大し、
伊勢市～名古屋・京都間が
概ね2時間で移動可能に



出典：ETC2.0プローブ情報（2022年6月平日昼間12時間平均）
名古屋：愛知県庁、京都：京都府庁、伊勢市：伊勢市役所を代表地点として計測

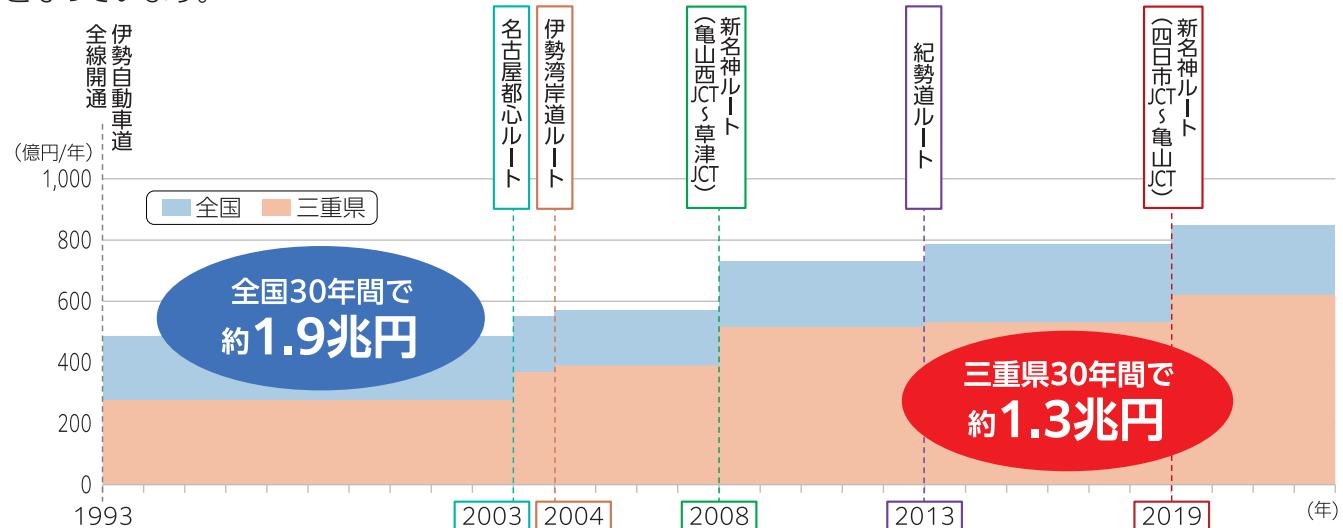
30年間の経済効果は約1.9兆円

三重県での30年間の経済効果は約1.3兆円

■ 伊勢自動車道の経済効果

伊勢自動車道が開通し移動にかかる時間が短縮されたことによって、地域間の交流や物流が活発になりました。地域の生産性が向上することによる経済効果は、伊勢自動車道全線開通後の30年間で約1.9兆円に上ります。なお、この経済効果のうち約1.3兆円は三重県における効果となっています。

また、周辺の高速道路などの整備に伴い、伊勢自動車道の開通による経済効果は徐々に増加する傾向となっています。



■ 三重県内における経済効果の分布

経済効果は伊勢自動車道の沿線地域において特に大きく発現しています。

また産業においては、地域の主要産業の一つである農林水産業や観光業等の分野の発展に寄与しています。



■ 高速道路ネットワークの整備状況



経済効果について

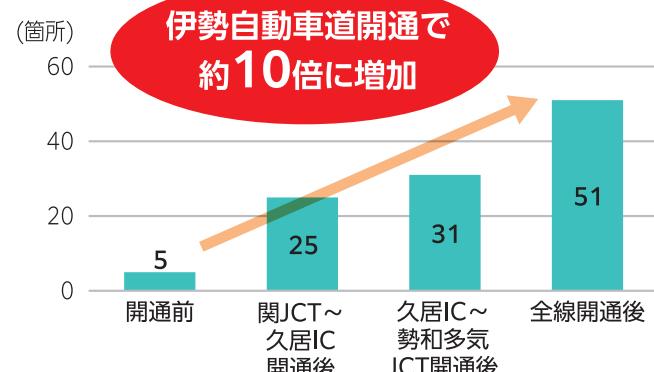
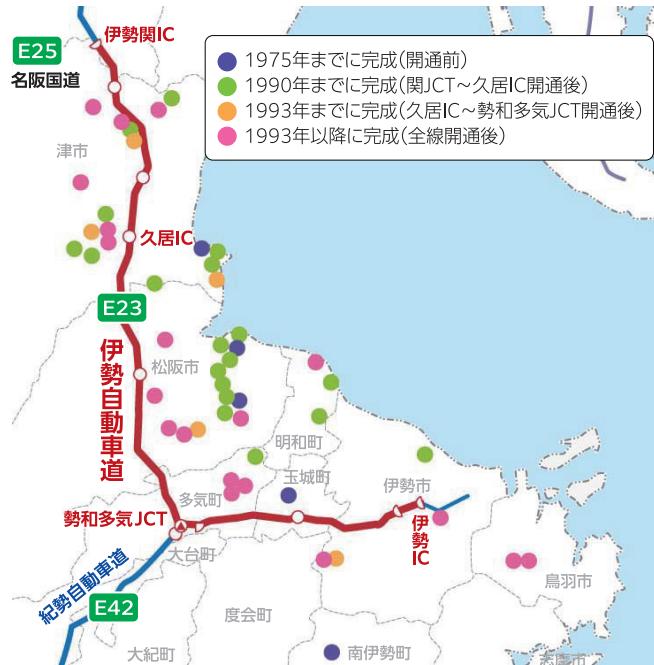
- 道路整備による地域間の所要時間の変化と、企業や家計の経済活動との関係をモデル化して効果を算定
- 神戸大学大学院小池教授監修のもと、空間的応用一般均衡(Spatial Computable General Equilibrium : SCGE)モデルの1つであるRAEM-Lightを用いて効果を算定

E23 伊勢自動車道の整備効果

沿線地域の工業団地が約10倍に増加

三重県の製造品出荷額等が約2.4倍に、自治体の税収も大きく増加

■ 沿線地域の工業団地の立地状況



出典:三重県提供資料、沿線自治体ヒアリング調査より作成

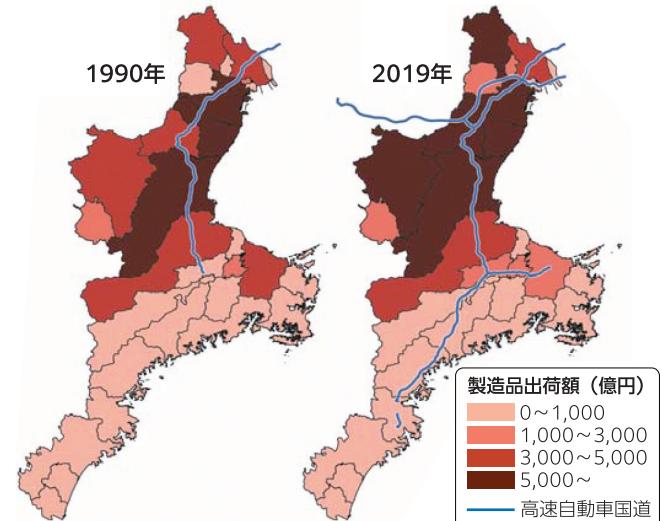
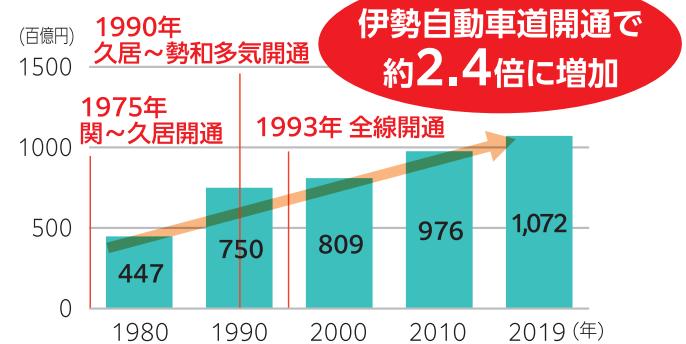
VOICE —立地企業—

- 創業の地である伊勢志摩地域に長年工場を構え、10年ほど前に新たに研究開発実験拠点を新設しました。
- 製品を全国や海外に出荷していますが、伊勢自動車道があることで、関西国際空港と中部国際空港の両方へアクセスできること、定時配達が見込めるとともに、リードタイムが30分～1時間短縮し、それに伴いドライバーの残業時間も短縮するなど輸送の効率化が図られています。

(沿線企業ヒアリング調査より)



■ 三重県の製造品出荷額等



出典：工業統計表

■ 沿線地域の市町村民税収入額の推移

伊勢自動車道開通で増加



※沿線地域:津市、伊勢市、松阪市、鳥羽市、志摩市、多気町、明和町、大台町、玉城町、南伊勢町、大紀町、度会町

出典:三重県市町行財政課「地方財政状況調査」

VOICE —伊勢市役所—

- 高台の需要増加とともに伊勢自動車道からのアクセスの良さで工業団地が完売し、周辺でも工業立地が進みました。

(沿線自治体ヒアリング調査より)



E23 伊勢自動車道の整備効果

沿線地域の観光入込客数が約1.2倍に増加

沿線に観光施設が次々に開業し、伊勢志摩地域の魅力が向上

■ 沿線の主な観光地



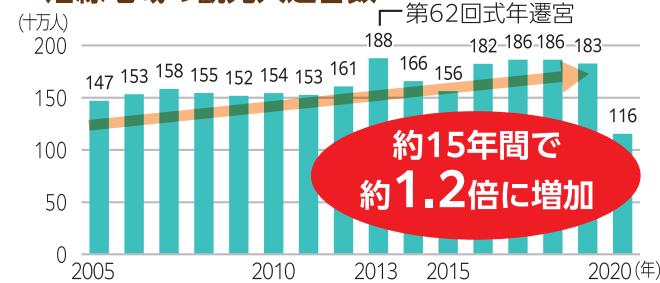
■ 三重県内の地点別観光入込客数(トップ10)

伊勢自動車道
沿線の観光施設が
5箇所ランクイン

順位	地 点	入込客数(千人)
1	ナガシマリゾート	15,500
2	伊勢神宮【内宮】	6,370
3	おかげ横丁	5,920
4	伊勢神宮【外宮】	3,360
5	二見興玉神社	2,457
6	鈴鹿サーキット	2,042
7	湯の山温泉	1,732
8	鳥羽市旅館街	1,697
9	椿大神社	1,580
10	多度大社	1,504

出典：令和元年度三重県観光統計

■ 沿線地域の観光入込客数



約15年間で
約1.2倍に増加

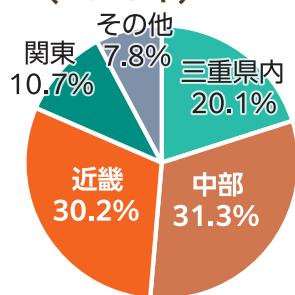
出典：三重県観光統計

*沿線地域：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、度会町、玉城町

*2020年度は新型コロナウイルス感染症などが影響し、減少

中部や近畿からのアクセス向上で日帰りの割合が増加

■ 伊勢志摩地域への方面別来場者割合 (2019年)

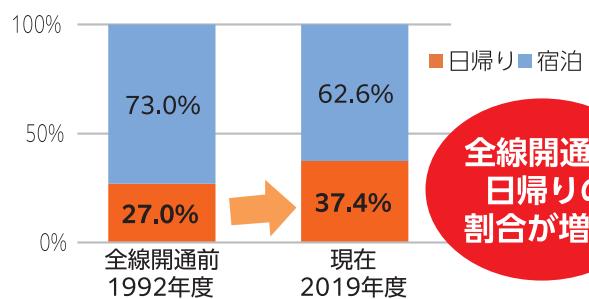


中部や近畿
からの来訪者が
約6割

中部：愛知県、岐阜県、静岡県
近畿：大阪府、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県

出典：令和元年度三重県観光客実態調査報告書作成

■ 伊勢志摩地域観光形態



全線開通で
日帰りの
割合が増加

出典：令和元年度三重県観光客実態調査報告書

VOICE —おかげ横丁—

● おかげ横丁にお越し下さるお客様は地元三重県内を中心に、関西方面、中部圏が多くを占めています。伊勢自動車道及びそこから繋がる高速道路は、伊勢への観光はもちろん、人の流れそのものを作っていたらいいと思っています。おかげ横丁も2023年7月に創業30周年を迎えますが、伊勢自動車道により、県内外のお客さまの誘客に好影響をいただいているです。

(沿線企業ヒアリング調査より)



式年遷宮の参拝者数が約1.7倍に増加

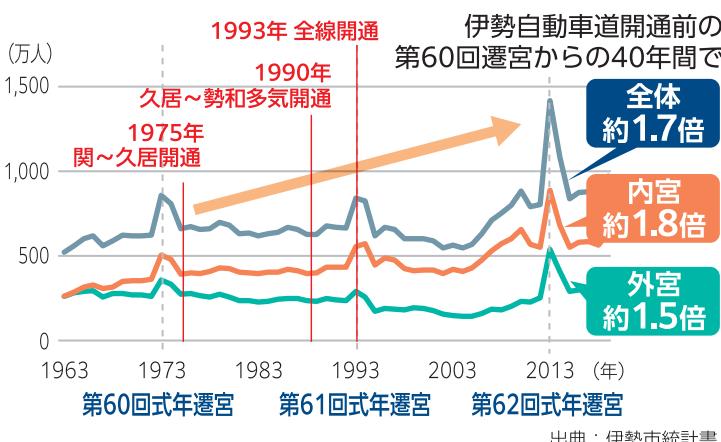
道路整備で伊勢神宮へのアクセスが向上

■ 遷宮と道路整備

式年遷宮時は多くの参拝客が訪れるから、周辺の交通基盤整備が進められてきました。伊勢自動車道は第61回遷宮と同時に全線開通しました。

1953年	● 第59回遷宮(戦争により延期) 参宮有料道路開通(全国初の有料道路)
1973年	● 第60回遷宮 南勢バイパス(国道23号バイパス)開通 パールロード開通
1993年	● 第61回遷宮 伊勢自動車道 全線開通
1994年	● 伊勢・二見・鳥羽ライン開通
2013年	● 第62回遷宮 紀勢自動車道(紀勢大内山IC-紀伊長島IC)開通 第二伊勢道路(国道167号バイパス)開通

■ 伊勢神宮参拝者数の推移



伊勢神宮 式年遷宮

内宮・外宮それぞれ東と西にある同じ形の社殿を20年ごとに交互に新しく造り替え、新しいお宮に神座を遷します。約1300年前に天武天皇が定め、690年に第1回目の遷宮がおこなわれて以来、戦国時代に一時の中断はあったものの、1300年間変わらず続けられています。

VOICE 一神宮司庁

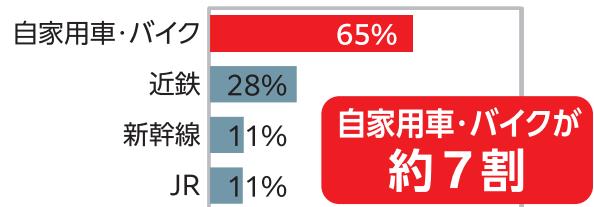
- 伊勢自動車道の開通で、アクセスが向上し、年末年始のみならず1年を通じて神宮へ来られやすくなり、参拝者数の分散に繋がっているようです。これにより、第62回神宮式年遷宮の2013年には歴代最多の約1,400万人の参拝者数を記録しています。（沿線企業ヒアリング調査より）



■ 伊勢神宮へのアクセス



■ 伊勢市への観光で利用した交通機関 (2021年)



伊勢自動車道などの道路整備が進むにつれ参拝者数は増加し、特に大規模駐車場があり車で訪れやすい内宮の参拝者数が大きく増加しています。

Topics

伊勢自動車道 パーク&バスライド (交通渋滞対策)

NEXCO中日本もメンバーの一員である伊勢地域観光交通対策協議会では、伊勢神宮周辺の渋滞対策として、年末年始、ゴールデンウイークなど多くの参拝客が訪れる時期に、伊勢西IC・伊勢IC出口の閉鎖やパーク&バスライドを実施しています。



E23 伊勢自動車道の整備効果

三重県の新鮮な水産物や農産物が食卓へ

三重県産伊勢まだいの取扱量が約1.6倍に

■ 三重県の養殖魚

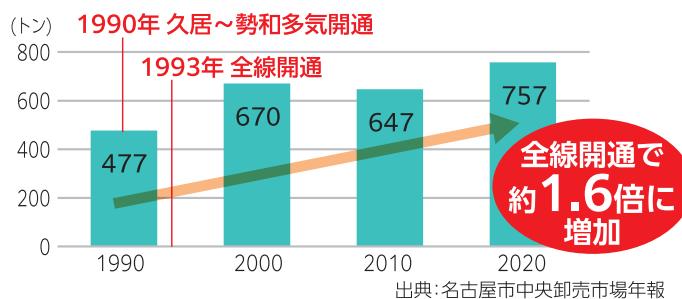
漁業環境に恵まれた三重県は、多種多様な魚種が水揚げされるとともに、リアス海岸の地の利を活かした養殖漁業も盛んです。

特に魚の王様と呼ばれるマダイの生産量は全国でもトップクラスで、伊勢まだいや伊勢まぐろは県産ブランド魚として、伊勢自動車道などの高速道路ネットワークを活用し、名古屋や首都圏に出荷されています。



出典：三重県漁業協同組合連合会

■ 名古屋市中央卸売市場における 三重県産伊勢まだいの取扱量推移



全線開通で
約1.6倍に
増加

■ 尾鷲からの所要時間



出典：ETC2.0プローブ情報（2022年6月平日昼間12時間平均）

VOICE ー三重県漁業協同組合連合会ー

- 中京圏、首都圏、北陸等の市場、生協への出荷の他、東京や名古屋に拠点のある大手スーパーに伊勢まだいを中心に出荷しています。スーパーの営業開始に間に合わせるため、夜間に高速道路を利用し配達しています。伊勢自動車道のおかげで、所要時間が短縮し、鮮度を保持したまま届けることができるようになりました。また、出荷時間に余裕ができたため、労働環境が良くなり、人材確保にも貢献しています。

(沿線企業ヒアリング調査より)



農産物直売所のオープンで県内誘客や販路拡大に貢献



朝津味ファーマーズマーケット
芸濃IC



JAグリーン津
津IC



JAグリーン津
久居IC

松阪農業公園 ベルファーム
一志嬉野IC

E23
松阪IC

伊勢自動車道
伊勢自動車道

勢和多気JCT
勢和多気IC

VISON
多気 SIC

玉城 IC
玉城 IC

伊勢西 IC
伊勢西 IC

VOICE ー三重県農林水産部ー

- 伊勢自動車道開通後、インターチェンジ周辺に農産物直売所等がオープンし、新鮮な農産物を購入することができる施設として、県内外からマイカーで訪れる人に高く評価されています。

(沿線自治体ヒアリング調査より)



出典：三重県観光連盟、VISON

E23 伊勢自動車道の整備効果

沿線地域の人口集中地区面積が約2倍に

市街化が進行し、大規模商業施設の立地でまちが活性化

■ 人口集中地区(DID)の変遷

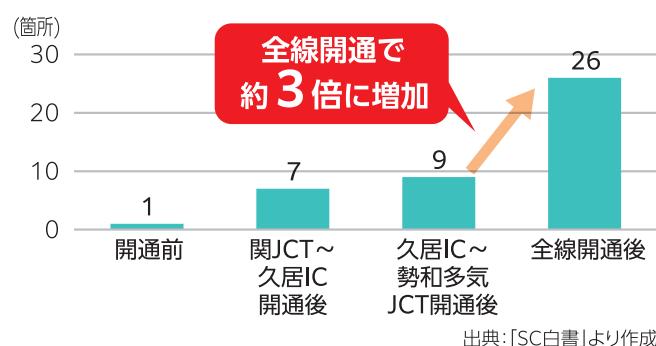
伊勢自動車道開通前の1970年から2015年の45年間で、沿線市町の人口集中地区の面積が約2倍、人口が約1.3倍に拡大しています。



人口集中地区：国勢調査の基本単位区等を基礎単位とした、市区町村の境域内で(DID) 人口密度の高い地域。

■ 沿線地域の大規模商業施設の立地状況

インターチェンジ周辺の町では、商業施設が立地するなど、まちの活性化に寄与しています。



VOICE —多気町役場—

●伊勢自動車道は、全国的な高速道路ネットワークとのアクセスの点において、地域住民の暮らしにとっても、大変大きな意義があります。

●2003年には「クリスタルタウンプロジェクト」をスタートし、工業団地を整備するとともに、商業・生活環境も整備しました。ショッピングセンターが開業し、2021年には「VISION」が開業しました。伊勢自動車道がなければここまで実現しなかったと思われます。
(沿線自治体ヒアリング調査より)



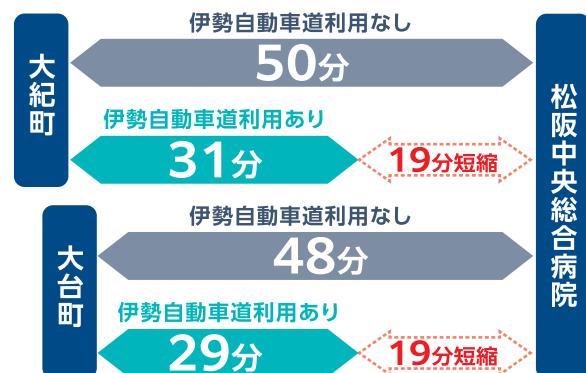
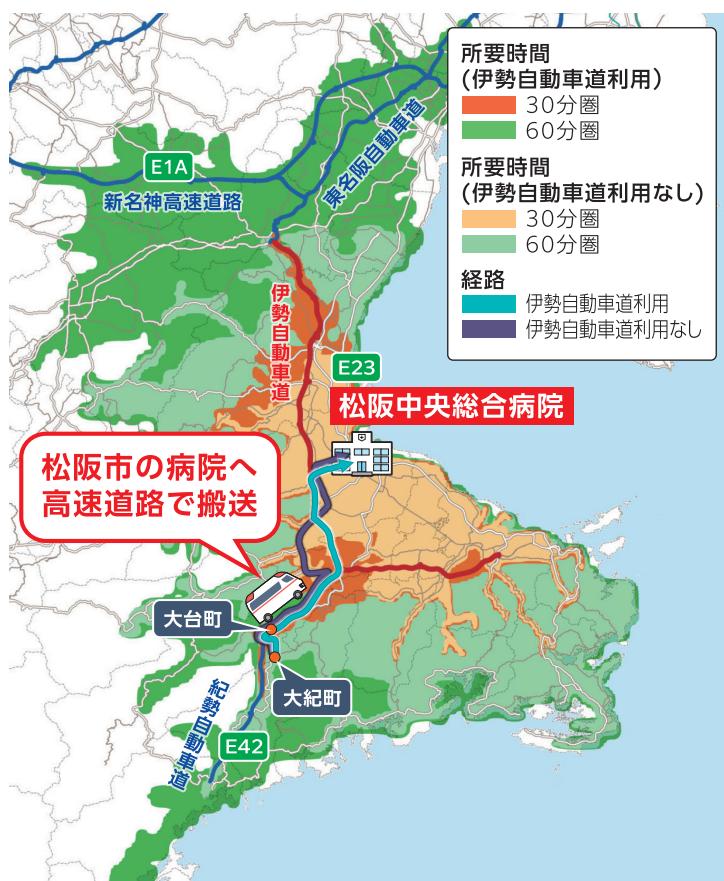
E23 伊勢自動車道の整備効果

安全安心な医療活動に貢献

早期搬送の実現で人命救助に貢献

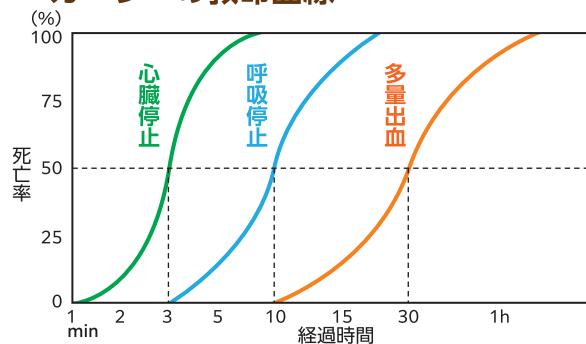
■ 救命救急センターからの所要時間

紀勢地区(大台町、大紀町など)には、二次医療機関がなく、緊急性の高い救急搬送は松阪市や伊勢市の病院に高速道路を利用し搬送しています。早期搬送は救命率向上のために重要であり、伊勢自動車道をはじめとする高速道路ネットワークは地域の安全安心に貢献しています。



出典:ETC2.0プローブ情報(2022年6月平日昼間12時間平均)

■ カーラーの救命曲線



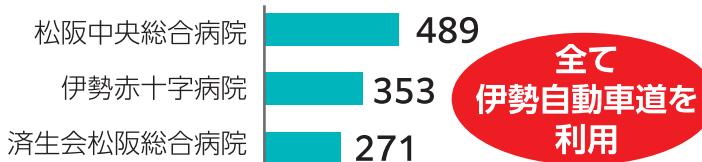
①心臓停止後3分で約50%死亡

②呼吸停止後10分で約50%死亡

③多量出血後30分で約50%死亡

出典:国土交通省

■ 管外病院への搬送回数(上位3病院)(2019年)



出典:紀勢地区広域消防組合消防本部提供

VOICE — 紀勢地区広域消防組合消防本部 —

- 緊急性が高い場合は、管外の病院への搬送となり、全て高速道路を利用します。伊勢自動車道などの高速道路がなければ、一般道での搬送となり、所要時間が大きく増加します。
- 高速道路の利用で、救急車の加減速、揺れによる傷病者への負担軽減にもつながっています。

(沿線消防・医療関係者ヒアリング調査より)



Topics コロナ対応に 伊勢自動車道が活躍

三重県全体で新型コロナウイルス感染症患者の入院調整をおこなう必要があり、多いときには1日5~6回、県が確保した専用車で北部の患者を南部の病院に伊勢自動車道などの高速道路を利用し運んでいました。

安全かつ速やかな搬送のためには、高速道路ネットワークは不可欠であり、コロナ禍対応にも大きな役割を果たしています。

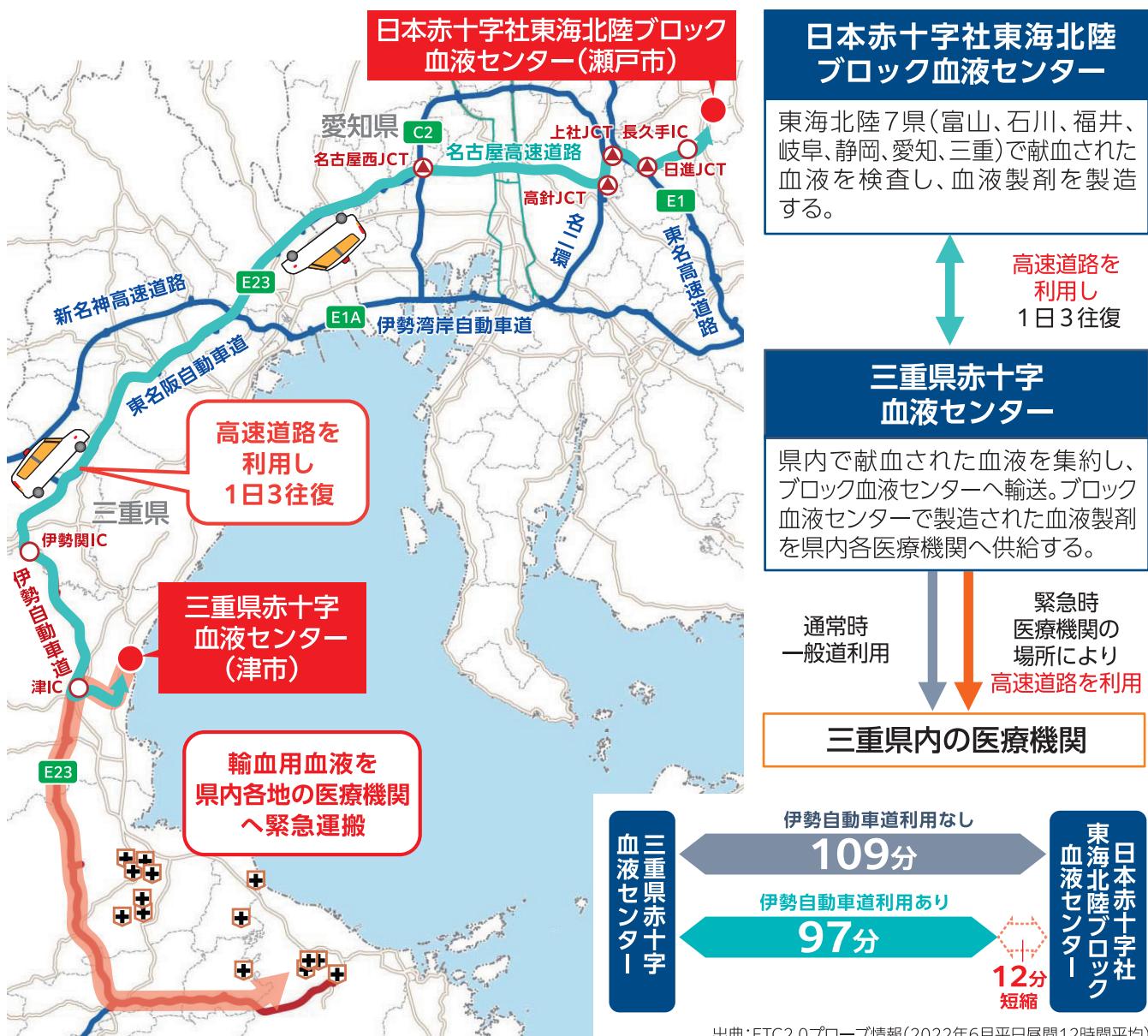
(三重県ヒアリング)

医療現場への血液の安定供給を支援

医療現場への血液の安定供給を支援

■ 輸血用血液供給の流れ

三重県内で献血された血液は、三重県赤十字血液センターに集約された後、検査・製剤のため日本赤十字社東海北陸ブロック血液センターに輸送されます。血液製剤のなかでも血小板製剤は採血後から輸血に使用するまでの期限が4日しかなく、速やかな輸送が必要なため、伊勢自動車道などの高速道路ネットワークの活用で、迅速かつ安定的に医療機関に血液を供給することが可能です。



VOICE —三重県赤十字血液センター—

- 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センターへの輸送は、到着時間などが決められるなど、時間的制約があるため、1日3往復、すべて高速道路を利用しています。
- 医療機関への輸血用血液の搬送には通常一般道を利用しますが、南部の医療機関への緊急要請時には伊勢自動車道を利用します。また、通常時においても、一般道の渋滞時などの迂回ルートとして、活用しています。

(沿線消防・医療関係者ヒアリング調査より)



地域連携で沿線の活性化を促進

伊勢自動車道を活用し地域と連携

安濃SAの森

伊勢自動車道・安濃SA(下り)に、地域の皆さまの交流の場となる安濃SAの森を2019年5月にオープンしました。

三重県の地域情報発信の場として活用し、三重の食材や材料を使った工芸品などの手作りマーケット「アノマルシェ」を定期的に開催するとともに、今後は、安濃SAの森を整備した際に出た木材を活用した木工教室や森の生き物の観察会など、交流できるイベントを開催していく予定です。

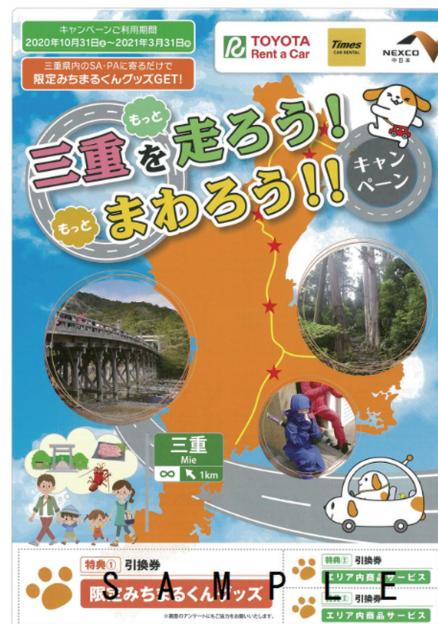


レンタカー×高速道路 キャンペーン

タイムズモビリティ(株)東海ユニット、(株)トヨタレンタリース三重と連携し、三重県へ観光でお越しいただいたお客様にレンタカーを活用し、県内を広く周遊していただくことで、県内観光地を応援するキャンペーンを実施しました。

【期間】2020年10月から2021年3月

【内容】・NEXCO中日本オリジナルキャラクター「みちまるくん」の限定グッズを進呈
・対象SA・PAでの割引サービス



忍者(NINJA)にちなんだ高速船×高速道路 キャンペーン

三重県の認知度向上及びインバウントや国内の観光誘客を目指し、伊勢自動車道を「忍者高速道路」と名付け、セントレアからの津エアポートライン「忍者高速船」とともに忍者アクセスルートとして、2020年10月に統一キャンペーンを実施しました。



料金所で忍者がお出迎え



忍者みちまるくんがあちらこちらに

自然と共生する高速道路へ

エコロードとして自然環境の保全に配慮

■ 自然環境保全の取組

伊勢志摩国立公園の特別保護地区・特別地域や伊勢神宮内宮を通過することから、関係機関と協議し、動植物の生息、生育環境の保全、自然景観に配慮するエコロードとして整備し、開通後も、自然環境保全の定期調査や生物多様性に配慮した様々な取組みをおこなっています。

自生植物の保全

周辺に自生する樹木からあらかじめ採取した種子から育てた「地域性苗木」をのり面に植樹することで、その地域に自生している植物による樹林化を促進しています。また、伊勢ICでは2013年の式年遷宮にあわせ、苗木約700本を地元の方と一緒に植樹しました。



全線開通後30年調査では、伊勢自動車道建設に伴う影響はほとんどみられず、植樹による樹林化が進んでいます。

植物の自然遷移の促進

勢和多気JCT～伊勢IC間は周辺から植物が侵入しやすくなるため、切土のり面の勾配を緩やかにすることで、植生の自然遷移が促進され、周辺景観との調和を図っています。



動物の保護対策

大型動物と伊勢自動車道を走行する車両との追突防止として、2.5mの動物侵入防止柵(通常1.5m)を設置するとともに、野生動物の横断路の確保として、オーバーブリッジ、カルバートボックスの設置や橋梁下空間を移動できるよう整備をおこなっています。

また、鳥類の横断移動阻害の軽減として、のり面の樹木植栽による横断の誘導をおこなっています。

全線開通後30年調査では、設置された横断路の利用が確認されており、のり面を利用する鳥類や動物も増加していることから、生育空間として機能を果たしています。伊勢自動車道は動物の移動を阻害していないことが確認されています。



オーバーブリッジ(養命滝橋)を利用する二ホンジカ

景観への配慮

自然石に模した擁壁・ブロック積み、橋脚の面取りなど景観に配慮しています。

また『伊勢市景観計画』においても、伊勢自動車道とそれに続く伊勢二見鳥羽ライン沿道の自然景観保全、緑化の推進が図られています。

西暦	和暦	伊勢自動車道のあゆみ・周辺高速道路との接続	世の中の出来事	
1971	昭和	46 6/1 関JCT～久居IC 施行命令		
1973		48		第60回式年遷宮
1975		50 10/22 関JCT～久居IC 開通(21.1km)		
1977		52	11/19	鳥羽市を国際観光文化都市に指定
1981		56 9/17 芸濃IC 開通		
1985		60		高速道路シートベルト着用義務化
1990	平成	2 12/6 久居IC～勢和多気IC 開通(26.1km)		
1993		5 3/29 勢和多気IC～伊勢IC 開通(21.6km) 伊勢自動車道 全線開通		第61回式年遷宮 おかげ横丁開業
1994		6	4/17	伊勢二見鳥羽ライン開通
1996		8 3/8 久居IC～松阪IC 4車線化工事完了		
		3/28 一志嬉野IC 開通		
1998		10 12/11 松阪IC～勢和多気IC 4車線化工事完了		
2001		13		ETCサービス開始
2002		7/29 勢和多気IC～玉城IC 4車線化工事完了		
		14 12/14 玉城IC～伊勢西IC 4車線化工事完了		
2003		15 3/29 伊勢自動車道 全線開通10周年		
2005		17 3/13 亀山直結線開通により東名阪自動車道と接続		
2006		18 3/11 紀勢自動車道 勢和多気IC～大宮大台IC開通により 勢和多気JCTで紀勢自動車道と接続	1/1	津市、久居市など10市町村が合併し、 新「津市」に
2010		22		高速道路無料化社会実験
2013		25 3/29 伊勢自動車道 全線開通20周年		第62回式年遷宮
2016		28		G7伊勢志摩サミット
2021	令和	3 4/29 多気ヴィンスマートIC 開通		
2023		5 3/29 伊勢自動車道 全線開通30周年		

NEXCO中日本公式WEBサイト

通行料金など高速道路に関する各種情報をご確認
いただけます。

<https://www.c-nexco.co.jp/>



i Highway中日本(アイハイウェイ中日本)

24時間高速道路の道路情報を確認できます。

出発時間、走行ルート、休憩などの走行計画にお役立て
いただき、安全・安心・快適に高速道路をご利用ください。

<https://www.c-ihighway.jp/>



NEXCO中日本お客さまセンター

0120-922-229 24時間年中無休
(通話料無料)

IP電話など一部の電話からはご利用できない場合があります。
その場合は052-223-0333(通話料有料)におかけください。

日本道路交通情報センター

最寄りの情報センターから
道路交通情報を入手できます

携帯専用・PHSのお客さまは**#8011**へ
固定電話のお客さまは以下の番号へ

全国共通ダイヤル 050-3369-6666

24時間年中無休(通話料有料)

<https://www.jartic.or.jp/>

お電話はおかげ間違ひのないようご注意ください。 ※運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています。ご利用はSA・PAで。

道路緊急ダイヤル

高速道路などを利用中に「故障車」や「落下物」、「道路の損傷」などを見つけたら、
『#9910』道路緊急ダイヤル(通話料無料)にお電話ください。
交通事故の通報は警察(110番)へ

「みちラジ」による交通情報

高速道路を走行中のお客さまの位置
情報をもとに、渋滞・事故・通行止めや
所要時間などを、スマートフォンに音声
でプッシュ通知によりお知らせする情報
通信アプリです。

